

● 廃校を生かしてまちづくりに取り組む

ひろ
せ

みの
る

穂さん(73) 南丹市八木町南広瀬

廃校となった母校の吉富小で三つの夢を思い描く。音楽祭、映画祭の開催と経営者の育成だ。「次世代につなげていくような、そんな故郷をみんなでつくっていき

旧吉富小 活性化拠点に

大学卒業後に就職した電気機器メーカーで働きながら、夜間の大学で経営学を学び、品質管理など工場全体の運営などに

携わった。定年まで勤めた後、その経験を生かして経営コンサルティング会社「京都ビジネスコー

そんな時、母校の吉富小が廃校となることを知った。ちょうど自治会長を務めている時だった。

「地域が衰退するのを黙って見ているわけにはいかない。活性化の拠点に変えていかなければ」と

つた」と話す。

昨年11月、旧吉富小は「吉富ノ庄」と名前を変え、住民の交流拠点や同窓会の会場として使われるようになった。吉富ノ

庄の敷地は、用途が厳しく制限される市街化調整区域だったが、7月下旬に地区計画がまとまり、ベンチャー企業向けの貸

しオフィスなど、商業利用に向けた準備も整いつつある。10月30日には音楽祭やプレ映画祭を盛り込んだ「第1回吉富ノ庄まつり」を行う予定だ。

考え、地域住民とともに「吉富ノ庄運営委員会」を結成。会長となった。

思いを同じくする人たちにはたくさんいた。写真や映像の撮影を得意とする人、歴史研究に熱心な

人、地元の飲食店を拠点に音楽を通じて交流の輪を広げている人。委員会

に関わる人は100人を超えた。「地元さまざ

まな人材がいたことを知らなかった。取り組みの

おかげで地域での付き合いが深く、広く、濃くな

「吉富ノ庄のおかげで地域と向き合うことができた。自分ができることをして支え、助け合うまちづくりを目指し、頑張りたい」

(榎原良)



吉富ノ庄を拠点に、住民が支え、助け合うまちづくりに取り組む廣瀬穂さん

(南丹市八木町・吉富ノ庄)

